Color Science Association of Japan

画像視／実物視／接触による和服素材の印象の違い
Impressions on kimono textiles by digital image view, actual view, and tactile feel

浅野 晃 Akira Asano 関西大学 Kansai University
廣田里紗 Risa Hirota 関西大学 Kansai University
浅野（村木）千恵 Chie Muraki Asano 名古屋女子大学 Nagoya Women's University
岡嶋克典 Katsunori Okajima 横浜国立大学 Yokohama National University

Keywords: 複合感覚，接触感，電子商取引

1．はじめに

ウェブサービスを用いた電子商取引が，繊維製品に関しても大きく発展してきている．繊維製品の質感は，接触感に大きく依存しており [1]，ウェブサイトを通じて質感を表現し，インターネットで伝達することは，重要な問題である．本研究は，和服素材についての人の印象が，液晶ディスプレイで画像を見た場合・実物をテーブルに置いて見た場合・手で素材に触れた場合で，どのように異なるかを調べたものである．官能実験の結果，液晶ディスプレイで見た場合には，他の場合よりも「重い」「厚い」という印象を受けやすいことがわかった．このことは，ウェブサイトの画像では繊維製品の質感は十分には伝わらず，電子商取引においては何らかの方法で補う必要があることを示唆している．

2．実験の方法

(1) 材料の作成

本研究では，和服素材の端切を寒色系 3 種・暖色系 3 種の計 6 枚用意した．図 1 に，6 種類の布を示す．各布の大部分を占める色はそれぞれ「濃紺」「黒」「紫「赤」「オレンジ」「白」である．これらの各々について，3 種類の見方に対応する試料を作成した．液晶ディスプレイで表示する画像は，図 2 のように，LED 照明 2 基を用いて撮影した．これらの画像は，周囲の影響を受けないよう，布地部分を切り抜いてディスプレイに表示した．使用したディスプレイは，EIZO ColorEdge CG276 である．一方，実物視や接触のためには，これらの布地を白い厚紙に貼り付け，実験の際にテーブルの色の影響を受けにくいよう配慮した．

(2) 官能検査の構成

本研究では，画像視・実物視・接触の各々の場合で，各布の「重量感」「厚み」「高級感」「きめ細かさ」を SD 法で測定した．回答は，各項目において「軽い–重い」「薄い–厚い」「普段使い–高級そう」「粗い–きめ細かい」の評価軸を提示し，5 段階で回答を求めた．被験者は男性 7 人・女性 9 人で，いずれも 20 歳前後の学生であった．

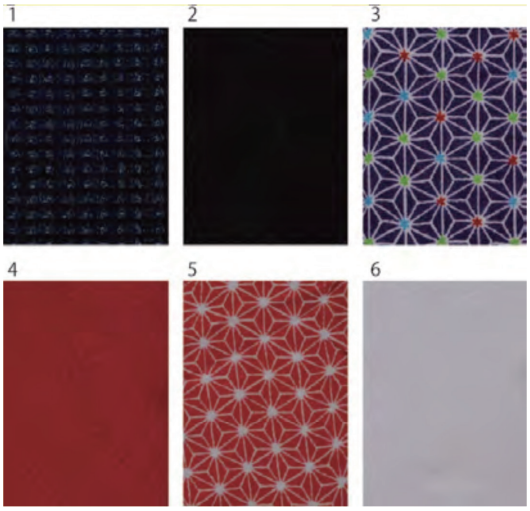

図 1．実験に用いた布の画像

図 2．撮影装置．壁際のパネルに布を固定

NII-Electronic Library Service

Color Science Association of Japan

(3) 実験の手順

1. 布の画像を液晶ディスプレイ上に1枚ずつ呈示し，被験者は，「重量感」「厚み」「高級感」「きめ細かさ」を5段階評価で回答する．布の画像は，図1の”1”から順に提示していく．
2. 被験者は，ディスプレイの前からテーブルに移動する．布の実物を，先ほど画像を呈示した順番とは逆順に1枚ずつ呈示し，被験者はそれを目視で確認して，同じ設問に回答する．
3. 布の実物を，手順2と同じ順番で再び1枚ずつ呈示し，今度は布に触れてから，同じ設問に対して回答する．提示順は手順2と同じである．

手順 2，3 では，被験者が1枚の布についての回答を終えるまではその布を机に置いておき，回答が確認できた段階でその布を回収して，次の布を呈示した．この際，回答の制限時間は設定せず，被験者各自のペースにまかせた．なお，回答紙には，評価軸に当てはまらない率直な印象を答えてもらうための自由記述欄も設けた．

3．実験結果と考察

図 3 に，「重量感」について，回答の平均を各布・各見方について示す．回答の数字が大きいほど「重い」，小さいほど「軽い」評価を示す．画像の場合のほうが「重い」と評価される傾向にあることがわかる．

図 4 は「厚み」の結果である．回答の数字が大きいほど「厚い」，小さいほど「薄い」評価を示す．「厚み」に関しても，「重量感」と同様に，画像で見たときのほうが「厚い」と感じられる傾向があることがわかる．

図 5 は，「高級感」の結果である．回答の数字が大きいほど「高級そう」，小さいほど「普段使い」評価を示す．4 番の布は，画像視→実物視→接触の順に評価が低下している．この布については「重量感」「厚み」も同様の傾向を示していることから，それらが「高級感」の評価に影響していると考えられる．実際，自由記述欄には「触ってみると，意外と薄い」というコメントがあった．

また，「厚み」の結果と「高級感」の結果を比較すると，1番と6番の布の評価がちょうど逆で，1番は厚いと評価されて高級感は低く，逆に6番は薄いと評価されて高級感は高い．6 番は白い布であり，薄いことがむしろ高級感につながっていると考えられる．

4．おわりに

和服素材を画像で見た場合・実物を見た場合・実物に触れた場合での印象の違いを調べた結果，画像で見た場合には実物よりも「厚く・重く」感じられる傾向があることがわかった．今回は小規模な実験であったが，今後様々な属性の被験者に対して傾向を調べる予定である．また，ディスプレイの特性との関係についても検討する必要がある．今回の結果は，電子商取引において質感を伝達するには，厚みや重量感の情報を伝えなければならないことを示唆している．現在，これを実現する方法を検討中である．

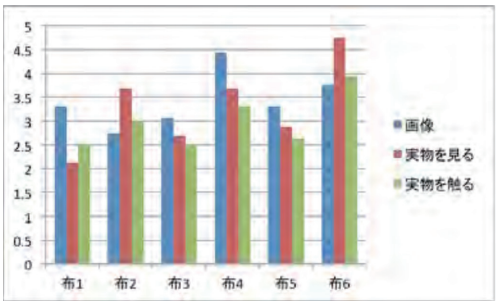

図 3 「重量感」の評価結果

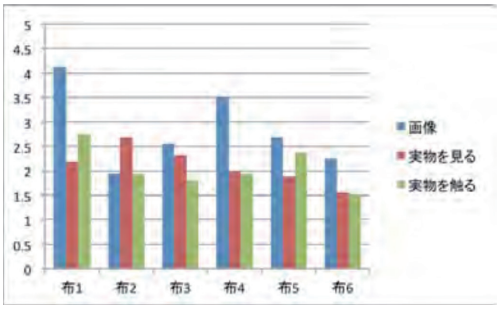

図 4 「厚み」の評価結果

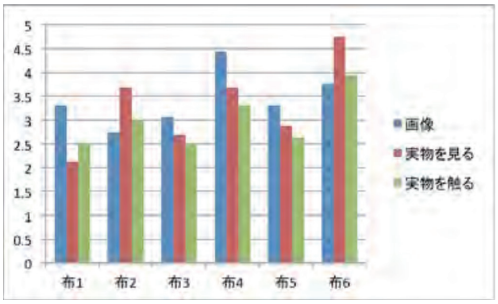

図 5 「高級感」の評価結果

参考文献

1）浅野千恵，画像処理における布地の質感評価への新しいアプローチ，繊維機械学会誌，Vol. 56, No. 6, pp. 254-262 (2003).

NII-Electronic Library Service